

## 平成22年度 産業建設常任委員会行政視察報告書

平成22年11月30日

1. 日 程 平成22年10月27日(水)～29日(金)
2. 視察先等 岡山県倉敷市 人口469,000人 面積355km<sup>2</sup>  
岡山県津山市 人口111,000人 面積506km<sup>2</sup>
3. 視察事項 倉敷市「美観地区夜間景観照明事業について」  
津山市「新産業創出機構による農工連携について」
4. 視 察 者 一行 9名
  - ・委員 高井 保 委員長 小野吉太郎 副委員長  
大平 一貴 委員 保坂 裕一 委員  
山田 義栄 委員 安武 秀敏 委員  
樋口 浩二 委員
  - ・当局 太田 憲之 (農林課係長)
  - ・随行 石井 信一 (議会事務局次長)

### 倉敷市

#### [市の概要]

岡山県の南西部、瀬戸内海に面して、67年に旧倉敷、児島、玉島の3市が合併しており、水島コンビナートのある工業都市であり、また白壁の蔵屋敷が建ち並ぶ美観地区、公園を中心に、年間600万人もの観光客が訪れる観光都市でもあります。

#### [事業の概要]

守り育てられてきた町並みや文化的遺産を更に整備を進め、後世に引き継ぐものとして、観光客の滞在型を進め経済効果を更に推し進めようと、平成17年度から22年度までに総事業費6億円での大きな事業です。

特色としては、倉敷川沿いを中心に伝統的景観を明かりで夜間も幻想的な景観を創り出し、倉敷の夜を滞在型観光客に楽しんでいただこうと云う事業であります。

#### [所見]

私達も夜の倉敷川沿いを散策して参りましたが、国のまちづくり交付金制度を利用し、地域特性をより以上に活かそうと観光協会等の発案で集中的事業として官民一体となった大掛かりな地区再生整備事業であると感じました。

その中で、電線類等の地中化、散策道路の美装化、その途中での展示会館等の整備、なにを見ても後世に大きな遺産を残し、次世代人はそれを守り、育てて行こうとするリレー世代の構えを見せられた時、残された遺産を引き継ぐ事の努力と地域住民の

協調や活動する姿は、訪れる旅人も日本のそこにしか無い歴史的文化遺産の奥行き  
の大きさに、改めて胸の中に留め置く事のできる景観であると感じ得る事と思いま  
す。

私達も（北越の小京都）として先人に引き継がれた加茂市に住んでおります。此の  
街に住み、誇りに感じた時、このすばらしい故郷を、やがては次世代に引き継がなけ  
ればならぬ為の行動が始まる事を願うものであります。

## 津山市

### [市の概要]

岡山県の北部、津山盆地に位置し、津山藩の城下町として栄え、江戸時代には宇田  
川玄随ほかの多数の洋学者が生まれ、日本医学発展の礎とも云われる人たちが活躍  
されており、また文化風土が相俟って「西の小京都」とも呼ばれ栄えつづけてきた所  
であります。

平成17年2月に加茂町、阿波村、勝北町、久米町などを編入合併しており、人口  
は11万人を超えています。

### [事業の概要]

津山市は江戸時代に森忠政による津山城築城とともに城下町として栄え、近代に  
至っては農業地帯を有する商業都市として、また高速道路の開通と共に工業団地も  
整備され栄えてきた地域であるが、バブル経済崩壊後の産業界の厳しさは出荷額の  
想像以上の落ち込みで、その再生には俛ならぬものを感じずるに至ったとの事です。

まちの再生生き残りをかけ、いち早く産、学、官プラス民の連携に着目し、津山市、  
津山商工会議所が中核となり「つやま新産業創出機構」を平成8年に設立し、金属加  
工、縫製、木工、地場食品等、関連企業を集結その連携支援に加え、地域高校や大学  
とも連携し、新商品開発や人材育成にも取り組もうとするものであります。さしあたり  
国の補助金を合わせ3千万円ほどの予算ですが、グループ会員は年3万円の会費  
制で、商品開発、開拓を進め、特に食品分野では地域の農産物を活用し、全国に通用  
する地域ブランドを育てようとするものでもあり、6次産業化による加工食品は全  
国各地での評価会でも優秀賞や逸品賞などを受け、最近の全国B-1グランプリ  
2009横手大会ではホルモンうどんが第3位に入るなど、ラーメン、洋菓子、津山  
餃子など、数々の特産品開発に取り組んでおります。

## [所見]

バブル経済の崩壊がもたらした国内産業の落ち込みは今だ癒えず、もはや再生の力を失いつつある企業も少なくありません。

そんな中、引き継いできた個々の産業に近視眼的に求めるのではなく、全く新しいイノベーション的感覚で得たものは、産業に業種為しで多種多様の技術の結晶が新しい産業への足掛かりになる事への挑戦であると知りました。

21世紀を生きる、それはまさに発想と開発力、それに団結と協働の何ものでも無いというものであります。

21世紀に生きる力を強く付けてゆくため津山市では、やる気があり、活性を誓う地元地域企業の取り組む姿はもはや俺だけの時代でなく、3本の矢の如く、産学官プラス民が一体となって初めて、責任を持ち希望の持てるまち作りが手に取れる事の実証を見せられ、その関連する人達との行動の為の連携の強さと必要性を強く感じました。

最高品質を作る その付加価値を高めるための加工技術、そして販売技術それぞれの持っているものを全て出し切る。そのときの産業力の結集が住民の安堵を結ぶものである事も知りました。

加茂市においても、多様の企業が寄り合っているまちでもあります。個々への支援も否定するものでは有りませんが、加茂市の生き残りへの為に、集中と選択そして効果はとの中で、明日が大きく見える加茂市の為に全市的発想でまちを起す事の出来る行動、その為の協議の在り方を今からでも手をあげる事の必要性を感じました。

それはまさに、まち全体の問題でも有り、遠く将来を見つめた時、取りも直さず行政における中長期の計画の中で、行政が発起的役割を負わなければ為らぬ事ではないか、とも感じた所であります。